

Title	メタフシカ 第33号 彙報/奥付
Author(s)	
Citation	メタフシカ. 33 p.183-p.184
Issue Date	2002-12-25
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/66673">https://hdl.handle.net/11094/66673</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 【彙報】

### 哲学哲学史

現在、専門分野・哲学哲学史には、学部学生二年生八名、三年生七名、四年生十三名(哲学・思想文化学専修所属)、大学院生博士課程前期課程八名、後期課程十名が在籍しており、里見軍之、山形頼洋、入江幸男、吉永和加の各教官が専門分野・文科基礎学、現代思想文化学および臨床哲学所属の各教官と連携しつつ、教育・研究指導にあっている。

本年度の講義・演習は、「H.-G.Gadamer: Wahrheit und Methode, I, II」「ドイツ哲学基本文献読解Ⅰ」「近代哲学史」「現象学の根本問題」「現代哲学概説(里見教授)」「フランス哲学基本文献読解Ⅱ」「十七世紀西洋哲学研究」「西田哲学研究(山形教授)」「指示と問答(3)」「正当化主義の可能性」「論理学初歩Ⅰ、Ⅱ」「Kant: Kritik der Urteilskraft(入江助教授)」という題目で行われている。また、その他に、現代思想文化学所属の教官・学生と合同で、修士論文や博士論文の作成演習が定期的に開かれ、活発な発表、討論がなされている。非常勤講師としては、伊豆蔵好美先生(奈良教育大学)、鹿野忠良先生(本学理学部)、藤本温先生(佐世保工業高等学校)をお招きし、先生方にはそれぞれ、「ホップズと十七世紀哲学の諸問題Ⅲ」(伊豆蔵先生)、「認識論講義—文科と理科に橋は架かるか—」(鹿野先生)、「中世スコラ哲学のインテンティオ論」(藤本先生)という題目で講義をして頂いている。(吉永)

### 現代思想文化学

現在、専門分野・現代思想文化学には、学部学生二年生八名、三年生七名、四年生十三名(哲学・思想文化学専修所属)、大学院生博士課程前期課程六名、後期課程七名が在籍しており、浅野遼一、溝口宏平、望月太郎の各教官が専門分野・文科基礎学、哲学哲学史および臨床哲学所属の各教官と連携しつつ、教育・研究指導にあたっている。

本年度の講義・演習は、「歴史の形而上学」研究、「宗教の形而上学」研究、「生命の形而上学」批判、「ヘーゲル弁証法の研究」、「ニーチェ」生の哲学」研究(浅野遼二教授)、「M・ハイデガー」存在と時間」の研究Ⅰ、Ⅱ(溝口宏平教授)、「フランス哲学基本文献読解Ⅰ」「十七世紀フランス思想研究」「十八世紀フランス思想研究(望月太郎助教授)」という題目で行われている。また、その他に、哲学哲学史

所属の教官・学生と合同で、修士論文や博士論文の作成演習が定期的に開かれ、活発な発表、討論がなされている。

非常勤講師としては、中敬夫先生(愛知県立芸術大学)をお招きし、「ビラン研究の現在」という題目で講義をして頂いた。

また、九月二十九日、「theo VERBEEK ユトレヒト大学教授・オランダ王立科学アカデミー会員をお招きして、デカルト哲学に関する研究討議を阪大で開催し、盛況であった。(望月)

### 臨床哲学

専門分野・臨床哲学には本年度、博士前期課程に七名、同後期課程に十二名が在籍しており、鷺田清一、中岡成文、本間直樹、紀平知樹の各教官のもとで個別研究を行うほか、哲学カフェなどの哲学的対話の主催を含め、学内外のさまざまな活動とリンクし、そのプランづくりや実践に参加している。このような臨床哲学の活動については、臨床哲学論考集『臨床哲学』第四号、および季刊『臨床哲学のメチエ』十号(特集…分散する臨床哲学)を通じて公開されている。また上記機関誌を含め、本専門分野の研究並びに社会活動については、ホームページ(<http://www.letosaka-u.ac.jp/ciph/>)でも読むことができる。また本年度より、臨床哲学の一部を社会活動へと接続すべく、文部科学省科学技術振興調整費(科学技術政策提言)を受け、プロジェクト「臨床コミュニケーションのモデル開発と実践」(<http://www.letosaka-u.ac.jp/ciph/leigen/index.htm>)を立ち上げ、他の研究機関および研究者の協力のもとで主に対話型コミュニケーションを中心とした科学技術と社会とのインターフェースを作り取り組んでいる。

今年度開講されている講義・演習は、次の通りである。(文学部倫理学専修対象のものも含む)。「関わる・演ずる・結ぶ(1)(2)」臨床哲学研究(1)(2) (鷺田教授、中岡教授、本間講師)、「ひとは何を欲求するか(3)(4)」西洋近代倫理思想史概説(学部生対象) (中岡教授)、「時間論」「ヘーゲル」法の哲学」を読む「邦語哲学・思想文献購読Ⅰ、Ⅱ」(鷺田教授)、「進化と倫理Ⅲ、Ⅳ」「現代倫理思想の諸問題Ⅰ、Ⅱ」「コミュニケーションの技法と実践」「倫理学概論(学部生対象)」「倫理学の研究方法(学部生対象)」「(本間講師)」「応用倫理学の文献を読む」(品川哲彦非常勤講師)、「カントの倫理学」「生命操作の倫理的課題」(霜田求非常勤講師)。(本間)

【編集委員会】

『メタフユシカ』第三十三号編集委員

委員長

里見 軍之(哲学哲学史・教授)

望月 太郎(現代思想文化学・助教授)

本間 直樹(臨床哲学・講師)

補佐

紀平 知樹(臨床哲学・助手)

メタフユシカ 第三十三号

平成十四年十二月二十日 印刷

平成十四年十二月二十五日 発行

編集兼  
発行者

大阪大学大学院文学研究科哲学講座

〒565-0853 豊中市待兼山町一―五

印刷所

株式会社 ケー・エス・アイ

〒557-0833 大阪市西成区南津守七―十五―十六